

第 11 回コンクール大賞の選考について

「わが村は美しく一北海道」運動が目指す姿とは、幾世代にも渡り営まれてきた農林水産業の健全な生産活動によってもたらされる「景観」、「地域特産物」、「人の交流」という3つの要素が、相互に関連し合いながら全体として調和を保ち、総合的に地域住民の生活に溶け込んで形成される「豊かさ」が醸し出す「美しい農山漁村」である。

今回の大賞審査においては、次の審査項目に基づき「景観」、「地域特産物」、「人の交流」の3つの要素との関わりを含め、総合的に評価した。

- 1 農林水産業の生産活動との関係性
- 2 活動に対する地域住民の主体的関与の度合い
- 3 継続性・持続性
- 4 地域住民の理解の度合い
- 5 個性・独創性
- 6 地域活性化への効果

これらの観点から、審査対象となった12団体の活動を審査すると、先に述べた「わが村」運動が目指す姿への取り組み内容に関しては、何れの団体も地域が主体となった魅力ある活動として評価されるものである。この中から今日の社会状況に呼応する先導性、モデル性において、特に優れている次の2団体を大賞として選考した。

大賞団体名：にじいろファーム（七飯町）

新規就農を目指す人々のロールモデルとなり、七飯町の地域活性化や次世代への食育推進に貢献

～選考ポイント～

- 七飯町の農家で研修を積み、その研修先の農家から農地や農機具などを譲り受ける第三者継承によって令和2年に新規就農。
- 地元で長く愛された直売所も引き継ぎ、自分たちで栽培した野菜のほか、地元の約30軒の会員農家と協力して山菜、果物などを含めて約150種類を販売。
- 修学旅行生などの農業体験の受け入れや就労継続支援B型事業所との農福連携など、多様な取組を就農からわずか4年の間に実践してきたことを高く評価。
- 新規就農を目指す人々にとってのロールモデルであると同時に、地域全体の活性化を牽引する存在として期待。

大賞団体名：美国・美しい海づくり協議会／余別・海 HUG くみたい（積丹町）

地域の基幹産業である水産業の持続可能な発展だけでなく環境保全との両立により地域全体の活性化に貢献

～選考ポイント～

- これまで廃棄物となっていたウニ殻を施肥材として利用することで藻場が再生され、ウニの生産量と品質が向上するなど、ウニと藻場の循環型再生産システムを実践。
- 積丹町、漁協、民間企業と連携し、ブルーカーボン創出プロジェクト協議会を立ち上げ、令和6年3月に「Jブルークレジット」の認証を受け、販売した利益を原資に新たな藻場を造成。
- 漁業と海洋環境保全の重要性を広く発信し、若い漁業者の参入にも繋がるなど、地域への経済波及効果を高く評価
- 地域資源を活用した循環型再生産システムを普及していく先導役として、道内のみならず、全国の農山漁村における地域創生のモデルケースとなることを期待。